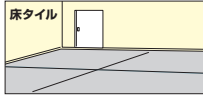
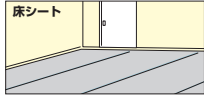


ボロンの施工方法

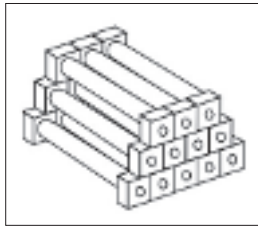
施工について

1. 下地の点検 ① 平滑さ ② 乾燥 ③ 強度 ④ 汚れ を点検します。



2. 割り付け・墨出し

● 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。



3. 材料保管

● 材料保管の善し悪しによって仕上がり状態が左右されます。**ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の保管管理は重要です。**

- ① 乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ② 室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。
- ③ 端部の発泡材は、はずさないでください。
- ④ 床シートの端の部分がつぶれたり、変形しないように注意してください。

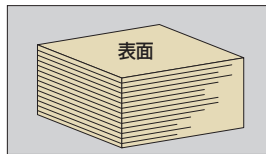
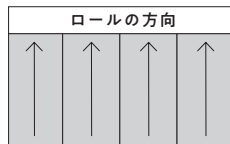


4. 材料確認

● 品番・ロット番号を確認し、同一場所に他のロットのものが混在しないようにしてください。

5. 養生（長尺シート）

- ロールが同一方向にあることを確認します。
- 5～10cmの余分を計算に入れて、長尺シートを粗切ります。
- この状態で、10℃以上に保たれた室内に長尺シートを少なくとも24時間仮敷きして、室内温度になじませ、巻きグセ、伸縮などを取り除いてください。



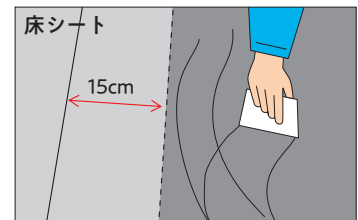
5. 養生（500角）

● 10℃以上に保たれた室内の平滑な場所で**タイル**を箱から取り出して、表面を上にして1～2日程度積み重ね、クセを取り除いてください。特に冬季はクセが取れにくいので、必ず箱から出してください。

⚠ ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の養生管理は重要です。養生を十分に行わずに施工しますと、施工後温度差による材料の伸びによって突き上げなどを起こします。

6. 接着剤塗布

- 長尺シート・500角タイルは隅から15cmずつの幅を残して接着剤を塗布します。長尺シートを重ね切りした後、その部分に接着剤を塗布し圧着します。
- 接着剤はアドヴァンの専用接着剤を推奨します。
- 当社の専用接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
- 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご確認ください。
- 木下地など通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいので、残留溶剤による塩ビタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は、接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにとってください。
- クッションフロアなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。
- 施工は専門業者に依頼ください。
- 下地の含水率が8%以下であることを確認してください。
- 低温時は接着剤の粘着は低下します。
5℃～15℃の環境下では、ウレタンボンドの使用を推奨します。
※ 湿気のおそれのあるモルタル床では使用しないでください



	一般工法	耐水工法
	<p>※ アクリルアドボン (AB-300A) アクリル樹脂系 エマルジョン形 15kg/缶</p>	<p>ウレタンアドボン (AB-500U) ウレタン樹脂系 溶液形 (1液性) 15kg</p>
長尺シート	○	○
500角タイル	○	○

⚠ モルタル、木質下地へは一般工法もしくは耐水工法にて施工してください。

7. 貼り付け・圧着（長尺シート）

- ①墨に沿って貼り始め、空気を押し出しながら貼り付けます。
- ②45kg以上のローラーなどで中央から継ぎ目に向かって残った空気を押し出すように圧着します。
- ③継ぎ目は6cm重ねます。
注）ロス分は材料代に含まれておりません。
※ポロン・ロールの柄はつながらないことがあります。
- ④端から3cmのところに定規をあて、重ね切りします。
- ⑤重ね切りした部分の床シートを持ち上げ、下地に接着剤を塗布し、オープンタイムをとってから貼り付けます。
- ⑥ハンドローラー等で入念に圧着してください。

⚠️ 圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

8. シーム処理（長尺シート）

●床シートの継ぎ目をシーム処理してください。

- ①マスキングテープのジョイント部分を2mm程度あげて、貼ります。
- ②ジョイント部分にシーム剤を塗布します。
- ③塗布後、マスキングテープをシーム剤が乾燥する前にはがします。

推奨シーム材：ヤヨイ科学工業（株）「シーム液タイプA」

⚠️ 施工後のワックスがけは不要です。

品質特性

寸法安定性
規格：EN 434（ヨーロッパ規格）
試験方法：試験体を80℃、6時間加熱し、翌日常温に放置。加熱前との寸法の差を測定する。
試験結果：ロール、タイル共に0.25%未満（基準は0.4%未満）

耐摩耗性
規格：EN 985（ヨーロッパ規格）
試験方法：繊維板の上に試験体を乗せ、その上

をナイロン製のキャスターが3つ装着している磨耗試験機を25,000回転させ、床材表面の変化を測定する。
試験結果：変化なし

耐荷重性
規格：EN 433（ヨーロッパ規格）
試験方法：500N/cm²の荷重を2.5時間乗せ、試験前と後の厚みの差を測定する。
試験結果：ロール、タイル共に0.2mm未満

耐衝撃音遮断性
規格：ISO 140-8
試験方法：コンクリートスラブの上に床材を施工した時（A）と施工しない時（B）の階下で測定した衝撃音レベルの差（ΔLw）を求める。
試験結果：アルティザン、ポタニック △Lw = 13dB、ナウ、エスニック及びBKB（サイザル） △Lw = 15dB、グラフィック、及びエイト △Lw = 12dB

人体帯電圧
規格：ISO 1815（国際規格）
試験方法：試験体を施工した部屋に人間を歩行させ、その後の人体と地面との電圧を測定し、その差を測る。
試験結果：ロール、タイル共に2Kv未満（基準は2Kv未満）

7. 貼り付け・目違い修正・圧着（500角）

- 施工する部屋の中心を基準にして、直角に交わるタテ、ヨコの基準線を墨出しし、部屋を4区分します。出入り口、廊下、壁面などには極端に小さなカットが入らないように、中心点を調整して割り付けてください。
- 基準線に沿って基準タイルを施工します。
- 施工はピラミッドの形（図1）ですすめてください。
- 市松貼りを標準としてください。

●目違い修正は、圧着する前に全て完了させてください。

●接着可能時間内に75kg以上のローラーなどでよく圧着します。

●接着剤が硬化するまでは、冷暖房による急激な温度変化や直射日光は避けてください。

●壁際などの端部は、隙、浮きのないように納まりよくカットし、ハンドローラー等で入念に圧着してください。圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。

二重床（OA下地）に施工する場合の注意

- 下地パネルの段差は1mm以内、隙間は2mm以内になるよう、レベル調整を正確に行ってください。
- 15℃以上の室温になじませてから施工してください。タイルと室温に温度差があると施工後突き上げ、目地隙を引き起こす原因になります。
- タイルのつめすぎは、施工後突き上げの原因になります。
- 図2のように下地パネルの目地をまたぐように、1/2ずらして割り付けてください。これは、下地の不陸が表面に現れにくくすると同時に水などをこぼした場合に、直接パネル下に落ちるのを防ぐためです。

ボロンのメンテナンス方法

ボロンは繊維状のビニルを織り込んだ床材です。

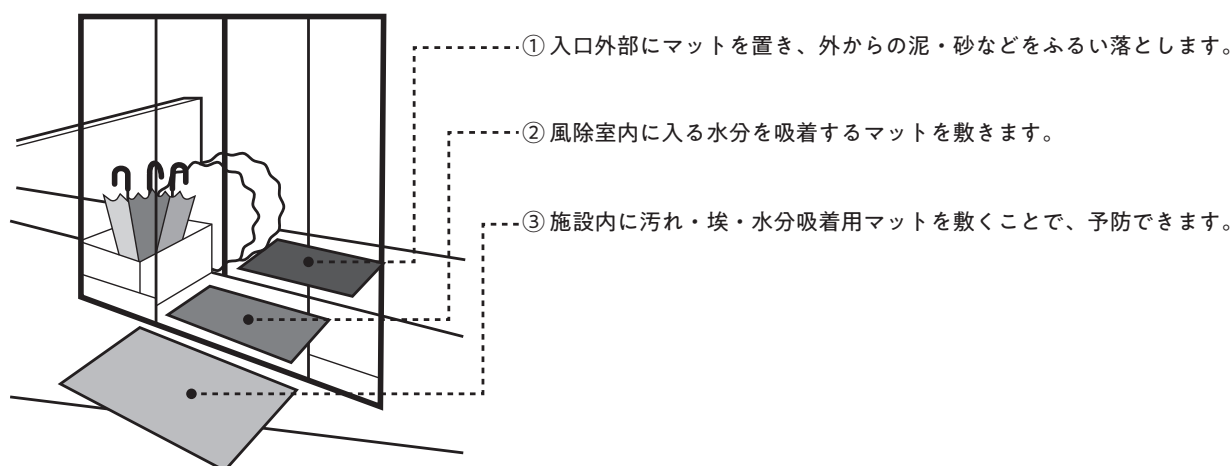
汚れ予防と日常の清掃について

■ 予防清掃

室内の汚れの80%は外から運び込まれます。靴底に付着した泥・砂などが施設内に持ち込まれ、汚れが拡散します。エントランスには以下の**3段階の床マット**を設置することが重要です。

- ① まずは、玄関の外に、雨・風耐用型のマットを置きます。
- ② 次に風除室内に雨の日の水分を吸着するマットを敷きつめます。
- ③ 最後に施設内に汚れ・埃・水分吸着用マットを敷きます。

※ 床マットが汚れて泥・砂が飽和状態のまま放置すると逆にマットの汚れが内部に入ってきますので、マットは常に清掃してください。床マットは毎日掃除機と月1回の水洗いをおすすめします。



■ 初期清掃（施工完了後）

土足での通行を禁止し、床面を保護して接着剤が完全に乾燥・硬化するまで十分な養生期間を取り、初回のメンテナンスを行います。

- ① モップや掃除機を使用して埃やゴミを除去し、床面をきれいに掃除してください。
 - ② ヒールマークや接着剤等の汚れは、床材の表面を傷つけないようにナイロンブラシやスポンジで取り除き、水または洗剤を含ませたウエス等で拭き取ってください。汚れを含んだ洗剤成分を完全に除去して乾燥させてください。（洗剤成分が残っていると汚れが付着しやすくなります）。
 - ③ 温水（40℃程度）を使用し、自動床洗浄機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。凹凸に入り込んだ汚水は湿式掃除機（バキューム）で完全に回収し、水拭きしてよく乾燥させてください。
- ※自動床洗浄機が入らないコーナー部や壁際はモップやハンドバットで清掃してください。

■ 日常の清掃

汚れがひどくなる前に、汚れの原因を取り除くことが長期にわたる美観維持につながります。

- ① モップや掃除機で埃やゴミを取り除いてください。雨の日はエントランス付近を重点的に、固く絞ったモップでぬれている部分を拭き取ります。
- ② ヒールマーク等落ちにくい汚れは、お湯または中性洗剤を使用し、ナイロンブラシやスポンジ等で取り除いてください。
- ③ 歩行頻度や汚れの状況に応じて、温水（40℃程度）または洗剤を使用し、自動床掃除機で洗浄してください。柔らかいパッド、またはブラシを低圧で使用し、洗剤を使用する場合は中性洗剤を希釈してください。凹凸に入り込んだ汚水は掃除機で完全に回収し、水拭きしてよく乾燥させてください。

■ 定期メンテナンス

日常メンテナンスで除去できない汚れが溜まってきたら、定期メンテナンスをしてください。

- ① 掃除機で埃やゴミを取り除いてください。
- ② 表面の繊維目に付着物が残っている場合は固めのブラシ類を使用して、雑巾等で軽く拭いてください。
- ③ エクストラクター（濯ぎ洗い機）やポリッシャーで清掃をします。水の使用にはご注意ください。

※エクストラクターは温水を使用して清掃してください。

※温水のみでの清掃をおすすめします。洗剤を使用される場合は中性洗剤を使用してください。

洗剤が残りますと汚れを呼び込みやすくなります。

※汚水、残水は完全に引き取ってください。

※濡れているときは、滑りやすいためご注意ください。

広い面積の場合

- ① 掃除機などで埃や塵を除去します。
- ② エクストラクター（濯ぎ洗い機）、もしくはスクラバー（自動床洗浄機）といった業務用清掃機で清掃します。
 - ・エクストラクターは温水にて清掃してください。スクラバーは柔らかいブラシを低圧にて使用してください。
 - ・必ずきれいな温水を使用してください。清掃機器は床の縦方向に流してください。
 - ・温水のみの清掃をお勧めします。どうしても洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使用してください。
 - ・洗剤を使った場合必ずその後十分に水洗いして、洗剤成分が床に残らないようにしてください。洗剤成分が床に残ると、汚れが付きやすくなります。

狭い面積の場合

- ① 掃除機などで埃や塵を除去します。
- ② モップがけするか、デッキブラシで軽くこする、もしくは小型のスクラバー（自動床洗浄機）で清掃します。
 - ・モップは必ず固く絞ってください。必ずきれいな温水を使用してください。
 - ・温水のみの清掃をお勧めします。どうしても洗剤を使用する場合は、中性洗剤を使ってください。
 - ・洗剤を使った場合は、必ずその後にきれいな水でモップがけて、洗剤成分が床に残らないようにしてください。洗剤成分が床に残ると、汚れが付きやすくなります。

⚠️ その他注意事項

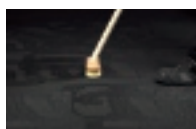
- 施工後ワックスは使用しないでください。
- ゴムとの直接の接触は変色の原因となる場合があるのでお避けください。
- 目地部でその芯材が出ている場合には、引っ張らずにはさみ等で除去してください。
- フラットな表面形状の製品と比べると、表面に織物特有の凹凸がありますので、汚れが残りやすくなります。ご注意ください。
- 汚れが付着した際には、汚れが広がらないように注意してすぐ拭き取ってください。時間の経過とともに汚れが除去しにくくなります。なお、汚染物質によっては除去不可能なものもあります。
- メンテナンス方法はホームページで確認できます。

メンテナンス方法

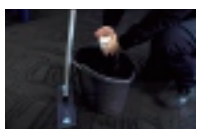
[通常メンテナンス]



1. 通常の清掃は、掃除機、ホウキなどを使って土砂やホコリを除去します。



2. 汚れがひどい箇所には中性洗剤を使用し、ブラシでこすってください。



3. 温水(50～60℃)を用意し、モップ掛けてください。



4. 拭き残しがないよう、乾いたモップでしっかり拭き取ってください。

ボロンの
メンテナンス
動画はこちら



[業者向けメンテナンス]



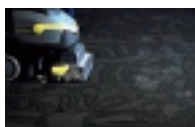
1. 通常の清掃は、掃除機、ホウキなどを使って土砂やホコリを除去します。



2. 広い面積の場合、柔らかいブラシと、温水を使用した床洗浄機で清掃してください。



3. しつこい汚れの場合には中性洗剤を使用し、洗浄してください。温水を使用した方が汚れが落ちやすいです。



4. 床洗浄機は、ムラがないように一列ずつ清掃してください。

[修復方法]



1. はがれた箇所大きめの新しいボロンを重ね、合わせてカットします。



2. 付着している接着剤をきれいに剥がしてください。



3. 新しい接着剤を下地に塗布してください。

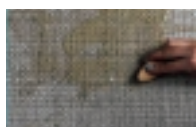


4. 新しいボロンを貼ってください。

[シミ除去方法] ※拭き残しがある場合、臭いの原因となりますのでご注意ください。



1. 汚れた箇所に温水をかけます。

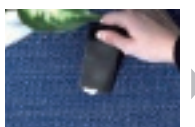


2. ブラシで汚れを落とします。



3. 拭き残しがないようにタオルで拭き取ります。

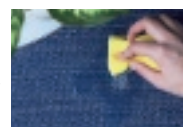
[ガム除去方法]



1. スクレーパーで表面に付着したガムを除去します。



2. 取り残したガムに100℃のお湯をかけます。



3. スポンジのたわし面でガムを除去します。